

鳥取大学乾燥地研究センター

生物生産部門 生理生態分野

大学院生：松浦朝奈

当研究室は鳥取大学から車で15分、日本海側へ走った鳥取砂丘にあり、四季折々の日本海と砂丘が見渡せる美しいリゾート地で、春は桜を見ながら花見酒、夏はプライベートビーチでビールを、秋は収穫を祝ってホッピーを、冬はしんしんと降る雪の中で雪見酒をと一年中おいしくお酒が飲める一等地です。

1994年9月1日現在、当研究室はナタネの稲永教授(46)・薬用植物の二次代謝の杉本助教授(35)という両先生の下、外国人研究者1名、大学院博士課程3名、修士課程5名、学部生6名および研究生1名が在籍しています。現在の主な研究テーマはナタネの物質蓄積停止機構の解明、有用二次代謝産物の生合成機構の解明、作物の耐乾・耐塩性機構の解明、コムギの深播耐性機構の解析、新しい根系非破壊計測の確立などです。作物種はナタネ、ゴマ、コムギ、オオムギ、トウモロコシ、ソルガム、ヒエ、キビ、アワ、パールミレット、ササゲ、ダイズ、ネピアグラスなどで、各作物種50品種から多いものはオオムギで約600品種あります。

稲永教授が着任されてまだ3年目の走りだしたばかりの研究室ですが、材料、テーマおよび実験手法の多様性から考えると、乾燥地研究ということでは将来世界をリードする研究室になるかもしれません！研究設備にもたいへん恵まれており、鳥取砂丘砂が敷き詰められた圃場、人工気象室、光合成・蒸散測定装置、水ポテンシャル測定器、根伸長測定装置、根長画像測定器、培養設備、ガスクロ、液クロ、イオンクロ、分光光度計、原子吸光光度計など、個体レベルから細胞レベルまでの一連の研究を速やかに行うことができます。また、約半年ごとに外国から客員教授を招いて週1回セミナーを開き、土壌物理、気象、植物生理など、いろいろな分野を幅広く勉強する事ができます。もちろん、研究室のセミナーも週一回開かれ、個体レベルでの生命現象から物質の生合成研究までの広範囲な話題を切磋琢磨(?)しながら勉強しています。現在在籍している学生は多かれ少なかれ乾燥地研究あるいは植物そのものに関心を持っており、これまで明らかにされてこなかったあらゆる点を解明すべく、マジメに日々実験に取り組んでいます。また、月に1~3回くらい開かれるコンパでは、夜遅くまでお酒の大好きな両先生方といろいろな話で盛り上がります。そう、当研究室で最も誇れるところは、いくら実験で忙しくても他人を思いやる心を忘れないところです。表現の仕方は人それぞれですが、心のどこかに研究室のメンバーのことがあり、陸の孤島もまんざら悪いことばかりではありません。

当研究室ではいつでもエネルギーに溢れた優秀な学生を募集していとのことで、乾燥地と根の研究または将来研究職を希望している方は、海水浴、スキーまたは大山登山のついでにでも是非一度お立ち寄りください。